

巻 頭 言

『異文化経営研究』第20号発刊にあたって

2023年は長かったコロナ禍というトンネルを抜け出し、ようやく日常を取り戻したが、それも束の間、ウクライナに加え、新たにイスラエル・パレスチナの戦禍という心を揺さぶられる展開に衝撃を受けた年であった。いったいこの先、人類は、地球は、どうなっていくのか、行く末への不安が頭を離れる日はない。このような中であっても、自分たちにできることを継続してしっかり行っていくことが大切ではないかと思いを強くしている。

いろいろな方のご尽力により、『異文化経営研究』(Transcultural Management Review)第20号が無事に発行されることは誠に喜ばしいことである。執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より厚く御礼を申し上げたい。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文4篇、研究ノート2篇、ケーススタディ1篇に加えて、招聘論文1篇と研究大会の講演録2篇が掲載されている。掲載された方のみならず、投稿されたすべての方の努力と勇気を称えたい。

さて、2023年3月11日に当学会は設立20周年を迎えることができた。実に感慨深いものがある。設立当初30名程度であったが、現在では400名を超える会員に支えていただく学会に成長し、研究大会のみならず、多くの部会やセッションを開催する活発な学会に飛躍した。

この度、この20周年を記念して、学会では新たに学会のロゴマークを制定することにした。プロのデザイナーに依頼し、広報委員会が案を絞り、最終的には理事会で決定し、総会でお披露目した。これを期に学会誌のデザインもロゴマークを盛り込んだ新たなものにした。このロゴは、人類・地球・宇宙および知恵と慈悲を表わし、あらゆる枠を越えて羽ばたく異文化経営の本質を表現している。ちなみに、金は智慧、赤は慈悲を表し、デザインは地球を包含し、へだてなく宇宙と未来に向かって広がっていく様子を表している。これは学会のパーパスにも呼応するものである。

こうして大きく発展することができたのも、会員の皆様のご理解とご関心の高まりのおかげである。温かいご支援を賜っている皆様に改めて心より感謝申し上げたい。

これからも社会に役立つ学会の運営と発展に向けて、皆様とともに歩んで行きたいと心より願っている。

2023年12月

異文化経営学会 会長

馬 越 恵 美 子